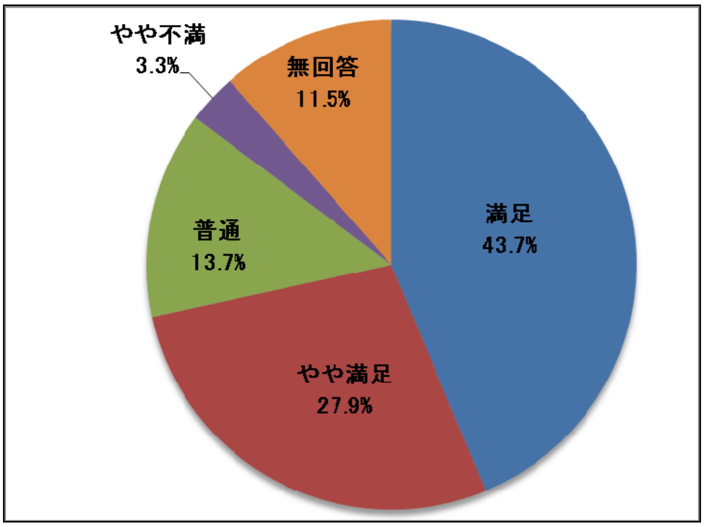
平成 25 年 2 月 27 日（水）

平成 24 年度　「コミュニティで創る新しい高齢社会のデザイン」研究開発領域
第 2 回領域シンポジウム

アンケート結果

■集計結果（回収数 183 件）

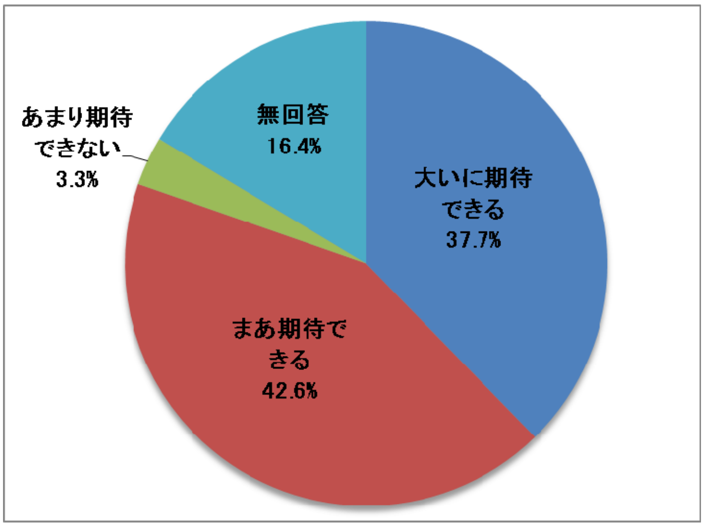
1.「基調講演」について



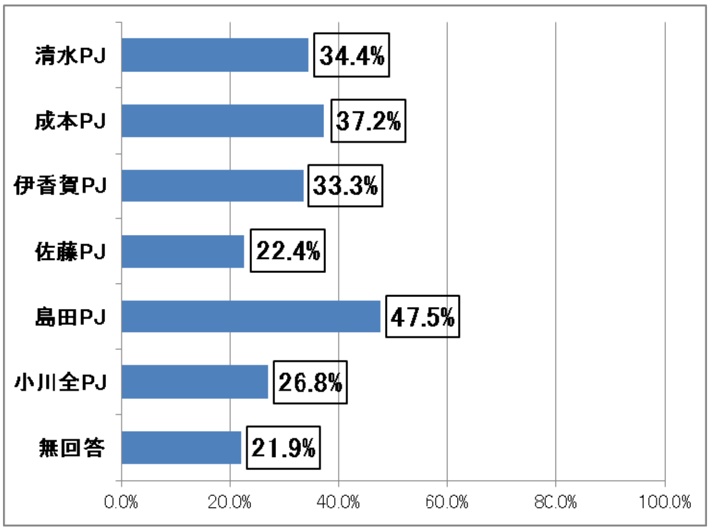
◆「基調講演」に関する主な意見

- 本シンポジウムの基調講演として本領域研究のコンセプトを代表するものだった。
- 高齢社会での新しい社会をつくるモデル提案であった。
- プロジェクトマネジメントの経験を持つ立場からの提案で示唆に富んでいた。
- ネガティブ発想からの転換のためのコンセプチャルデザインは非常に参考になった。
- プラチナタウンの構想がいい。今後の社会になくてはならない。ぜひ実現していただきたい。
- 高齢者を集めて、セーフティネットではなく、一律サービスではないという点は、これまでに無い視点。行政としても必要になる。
- 全国、すべての人に同じケア、ということからはずれて考えることは発想として面白いと思うが、お金がまわるかどうか。しっかりと考える必要がある。
- ある程度の富裕層を対象としたものであったが、中堅層からやや低いレベルの方達についての話を聞きたいと思った。
- プラチナタウンの仕組みはとても興味深かったが、地域性・文化などがなくなってしまうのではないかと少し不安に感じた。
- 非常に興味深かったが、地方の人間からすると少々受け入れがたい発想もあった。
- 大きなプロジェクトも最初は「夢」や「妄想」から始まると思うので、大きな「夢」(「妄想」)を抱いて良いのだと心強く思った。
- 夢を共有できる仲間を作り、その実現に向けて行動していこうと思った。
- 2030 年には、生まれた時から都会くらしの人が（老若とも）多数派になりそうで、その時の処し方も考えておきたい。
- 個人も、行政ももっと夢のある老後を目標とすべきだと思う。プラチナタウン構想は何も新しい発想では無いが、今後の発展は有り得ると思う。
- 30 年後の超高齢化社会に向けて、あるモデルを構築し実際に稼働させることが重要であると感じさせられた。

２－１．平成２４年度採択プロジェクト紹介について



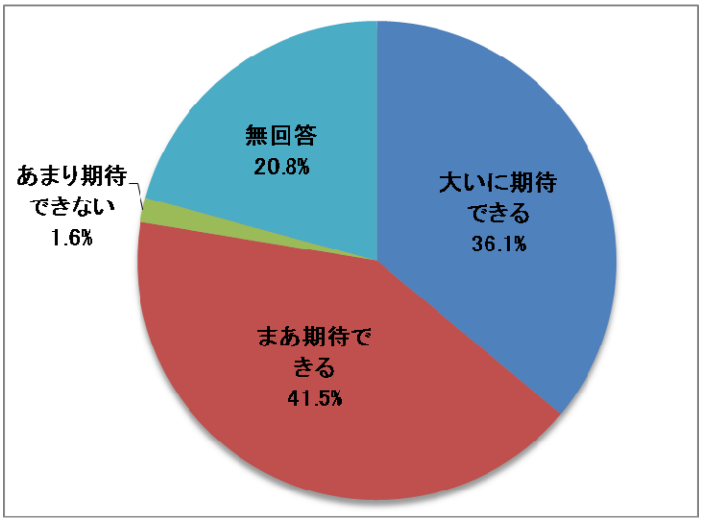
２－２．関心を持たれたプロジェクト（複数回答可）



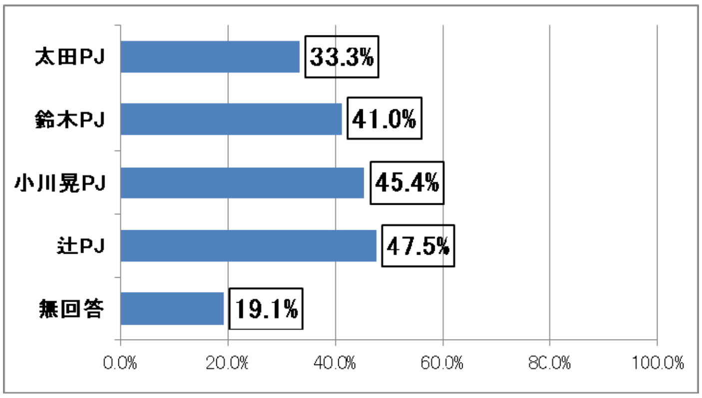
◆平成２４年度に関する主な意見

- どれも大事なプロジェクトであり、全国展開できる成果の産出に期待する。【複数 PJ 選択】
- コミュニティでいかに認知症高齢者をどう支えていくのか研究成果やその社会への実装が期待される。【複数 PJ 選択】
- 住まいの問題について、地方と都市部との違いを被災地や高齢化が進んだ都会で先進して進めていってほしい。【複数 PJ 選択】
- 課題とアプローチが明確なプロジェクトは期待できる。一方で総花的な印象のあるものは予算消化に終わらないか多少の懸念を覚える面がある。【複数 PJ 選択】
- 団塊の世代が介護や認知症等の課題にまったく興味を示していないことが、気がかり。プロジェクトは本当に先進的取り組みで、遠い将来像は大きな希望を持てる。【複数 PJ 選択】
- 尊厳のある生き方、公正（平等でなく）である社会の実現に向けて重要な取りくみだと感じた。自分の意思を尊重されない社会に生きる人、全てに通じると思う。【複数 PJ 選択】
- 若い人もいずれは年をとるので、若い人向けに reach する工夫をもっとするとよいと思う。【複数 PJ 選択】
- 社会に役立つ方法、アプローチとして公表（わかり易く、広く）してほしい。【複数 PJ 選択】
- プロジェクトの主役は誰か？現地が主役なら現地の方が話すべきではなかろうか？上から目線に見える。（本当はそうでないと思うが。）外部支援がなくなっても継続される仕組みと人づくりをする必要があると思う。【複数 PJ 選択】
- すでにある切実な課題に対処することが最優先で、将来の構想プロジェクトも、同課題への対応を前提とすべき【複数 PJ 選択】
- 10 分間の発表では、プロジェクトの概要もあまり把握できなかったのが残念。【複数 PJ 選択】
- 医療の現場で働いているが、大変興味がある。【清水 PJ】
- 達成目標にもあるが、医療同意法法案の制定が必要不可欠と思う。【成本 PJ】
- 認知症を社会で受けとめる社会システムのイノベーションが必要。【成本 PJ】
- MCI に対する取り組みが、もっと活発になる事を期待しています。【成本 PJ・島田 PJ】
- 今後、認知症高齢者が増える中で、地域でどう支えるかが課題になるが、とても参考になった。【島田 PJ】
- 食のレベルで広く活用が広げられたらと期待する【島田 PJ】
- 住環境のイノベーションは大事なテーマである。【伊香賀 PJ】
- 日本では未熟なクラブ型コミュニティ形成発展に期待する。【小川全 PJ】

２－３．平成２２年度採択プロジェクト成果報告について



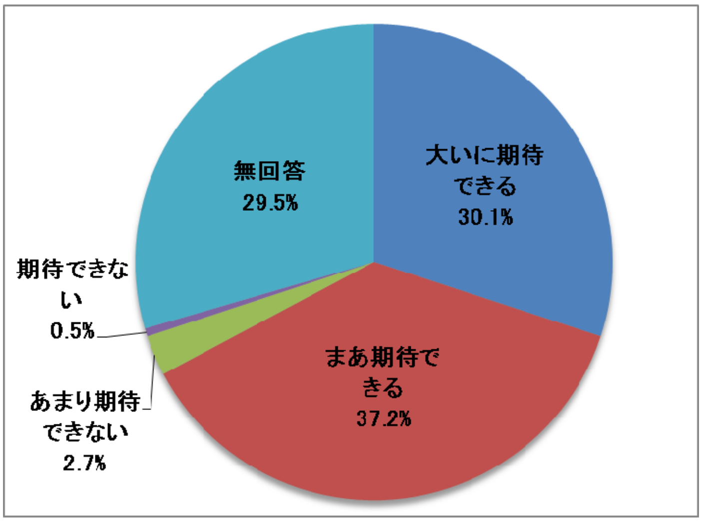
２－４．関心を持たれたプロジェクト（複数回答可）



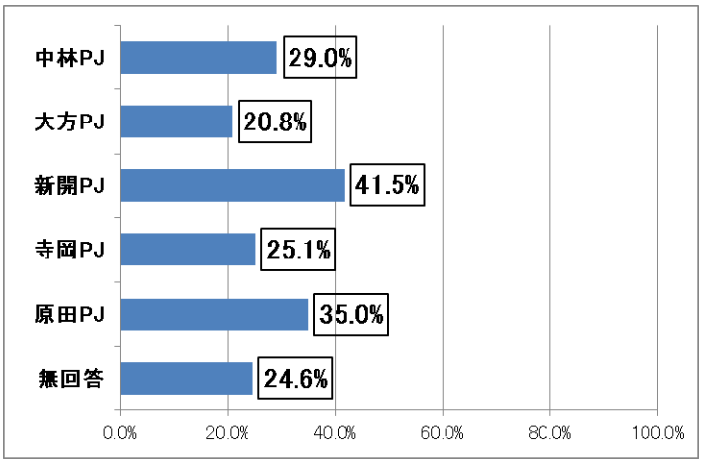
◆平成２２年度採択プロジェクトに関する主な意見

- 取り組みを全国的に広げ、実践できるしくみを作ってほしい。【複数 PJ 選択】
- 一般論でなく具体的成果を展開し、地域に特化した鍵をみつける手法が必要。【複数 PJ 選択】
- 既存の日常業務の軽労化や高機能化と結びついたサービスの開発が必要。ex、ソウジロボット、ネットワーク家電など。【複数 PJ 選択】
- 在宅医療の拡充は重要なテーマ、社会システムのイノベーションが必要。【太田 PJ】
- 地域診断や指標を政策や事業にどうつないでいくか、について情報提供がほしい。【太田 PJ】
- 実生活に反映できるとよい。【鈴木 PJ】
- 必要な改定だと思うが、研究レベルのテーマかは疑問。【鈴木 PJ】
- ADL、IADL といった社会的活動を維持するための勉強・努力も必要だと思う。【鈴木 PJ】
- 就労の有無や IT への関心の有無が社会的役割や能力の低下ということになってしまう。質問項目をもう一工夫していただき、実態や時代に即した指標の普及を期待する。【鈴木 PJ】
- これまで老研式活動能力指標を使用していたが、改訂版が出るのが待ち遠しい。【鈴木 PJ】
- 指標を標準化するプロセスの確立と、そのプロセスの共有に期待する。【鈴木 PJ】
- ICT 利用の地方での取組を都市部での小コミュニティ単位でとり入れられないか。【小川 PJ】
- 成果も具体的で素晴らしく、現場をよく分かった興味をひかれるテーマだった。【小川 PJ】
- ICT を活用した生活支援は今後拡大されると思うので、拡がりが期待される。【小川 PJ】
- 生活支援、見守りにはいろんな組織の複合化が必要だろう。【小川 PJ】
- 様々な地域資源を有効に有機的に結びつけている小川先生の取り組みは、地方の人間として非常に参考になった。ぜひ参考にしたい。【小川 PJ】
- 現場にて ICT を使った、まさにアクションリサーチである。【小川 PJ】
- 高齢者にとって就労は心の健康につながると思う。【辻 PJ】
- 地域のおける就労機会の掘り起こしが重要。【辻 PJ】
- 農村部においても、生きがい就労のシステムづくりは、地域社会の維持に不可欠。【辻 PJ】
- 今後セカンドライフを迎える世代は、創造性豊かな人々なのでお膳立ては不要と思った。男性が家庭内自立せず、リタイア後も外で就労したら、女性はいつまで苦労するのだろうと感じた。【辻 PJ】
- サラリーマンが定年まで働いた後は、就労に限らず、地域等での社会貢献活動が仲間づくり、生きがいづくりに繋がると考える。【辻 PJ】
- 豊四季台団地の取り組みを一度直接見てみたいと思った。【辻 PJ】

２－５．平成２３年度採択プロジェクトポスターセッションについて



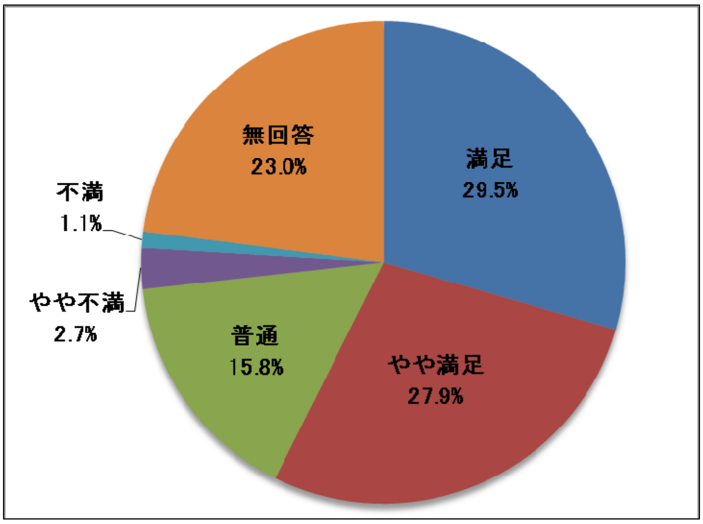
２－６．関心を持たれたプロジェクト（複数回答可）



◆平成２３年度採択プロジェクトに関する主な意見

- どれも高齢者にとって重要なプロジェクト。ぜひすすめていってほしい。【複数 PJ 選択】
- どのプロジェクトも興味深く、全国展開が望まれるが、超高齢少子化社会で 5 年、10 年後も継続できる事業なのか気になる。地域社会にキーパーソンが居なくなった時のことを想定しながら、多くの人たちと課題を共有していければと思う。【複数 PJ 選択】
- 高齢者の自立支援活動として期待する。【複数 PJ 選択】
- より具体的・実践的なテーマが多いと感じた。【複数 PJ 選択】
- 新しい発見について述べられれば、よかった。【複数 PJ 選択】
- 歩行圏のコミュニティづくりは大切。【中林 PJ】
- 自宅における歩行の実態も調査してほしい。【中林 PJ】
- 歩行器はよく考えられているが、都市以外での使い方も検討するとよい。【中林 PJ】
- 東京ではなかなか難しいので、歩行器がもっと活用されることを期待する。【中林 PJ】
- 歩行補助車はよくできているが、電動で楽に歩行できると尚良い。【中林 PJ】
- 人との関わりが少なくなる中、足腰が弱くなっても補助車を使って街へ出てゆく、人と交わる事が非常に大切。その為大変参考になるプロジェクトだと思った【中林 PJ】
- 引きこもり防止につながる高齢社会デザインを作るヒントとなった。【中林 PJ】
- 実物展示は説得力があった。【中林 PJ】
- 高齢者にとって使いやすい道具を検証する取り組みは続けてほしい。【原田・中林 PJ】
- 若い研究者による対話型の実践に大きな期待をする。【中林 PJ・原田 PJ】
- 実用性があり、高齢者のためになる。【原田 PJ】
- 高齢者の生活に合致した製品開発、サービス開発が必要。【原田 PJ】
- みんラボ的なとりくみを社会に広げていく際の課題も考えてほしい。【原田 PJ】
- 高齢者自身が主役になって進められている点に非常に共感を持った。【原田 PJ】
- 新開先生の不断の研究活動に敬意を表する。【新開 PJ】
- 実際に日々課題に取り組んでいる高齢者介護担当者の現場の課題分析が十分にできていないのでは？【新開 PJ】
- まだ社会システム全体には浸透していないので、今後に期待する。【新開 PJ】
- 健康余命の延伸には大きな啓発活動も必要。【新開 PJ】
- 高齢者になったとしても、やれることを探して続ける点が良い。全てのことに通じると思う。【寺岡 PJ】

３． パネルディスカッション①
「高齢社会の CARE と CURE 」について

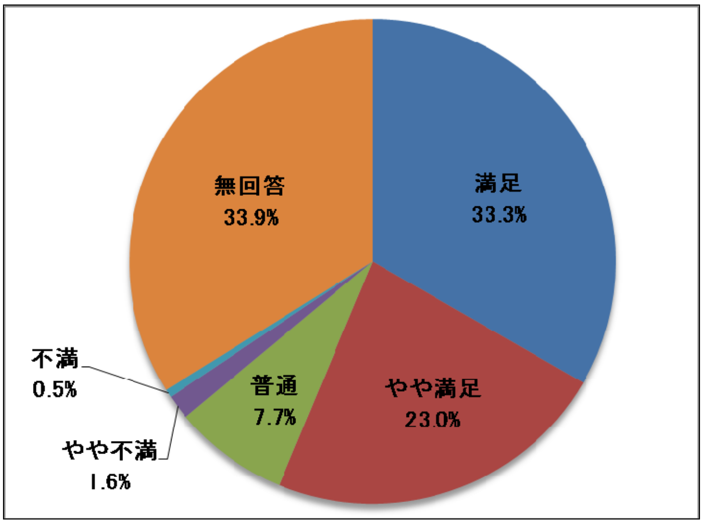


◆パネルディスカッション①に関する主な意見

- 「老い」を普通とする社会づくり、その受け皿としての医療・福祉の人づくり、明確なビジョンをもった行政づくりが必要。
- 太田先生の唱えるように、行政によいコンダクターになってほしい。医療、治療をしなくてもいい医療、あるがままのケア等、新たな在宅医療体制の構築をのぞむ。
- 医者、介護者、行政、家族、高齢者本人、それぞれが、密接に連携しあうことが大事、とあらためて認識した。社会インフラ構築に結びつけていくことも大事。
- パネリストの認知症の理解の深さに感動した。やはり住民の意識改革は重要だと痛感した。
- ハイカイも散歩、ピンピンコロリでなくても良い、地域で支える、当事者目線が大切等、大変参考になった。
- コミュニティで考える意味・価値について永田先生のまとめが分かりやすかった。
- それぞれの先生方のお話は面白かったが、「ディスカッション」になっていなかった。
- 個々の先生方の詳細な説明を聞くことができて、大変有意義だった。
- care と cure について、どうあるべきかが討論されると思っていたが、分担、統合、連携、協働どの話なのかもう少し焦点を絞った方がよい。
- 永田先生がおっしゃった存在不安を抱えた人にとってのコミュニティについて改めて議論できる機会を期待する。
- 認知症課題からの話をもう少し聞きたかった。
- 地域差、特に大都市と地方との違いを感じた。
- コミュニティにおける認知症のあり様に思いをめぐらせることが出来てよかった。それにともない care と cure のバランスの重要性を考えさせられた。
- コミュニティ会議を創設する支援システムが必要。
- 範囲が広く、ややまとまりに欠ける気がしたが、これからまとめていってほしい。
- 議論が組み立てられていく進行がよかった。
- 行政もコミュニティの一員であるということばがとても印象に残った。当事者の言葉・意見を取りこんだケアがいかに大切か改めて考えさせられた。
- 現代の高齢社会の課題は行政システム（社会サービス）のイノベーションであるとの辻先生の言葉が印象的で、国はどう考えるのか、厚労省か総務省の考えを聞きたかった。
- 短い時間なりにそれぞれの立場から濃いキーワードが出されたと思う。行政、地域医師会、住民の連携が問題意識としてかなりバラバラのレベルの中で、市民の意識改革が最も必要だと思った。おまかせではない地域社会をどうデザインするか、問われている。

４． パネルディスカッション②

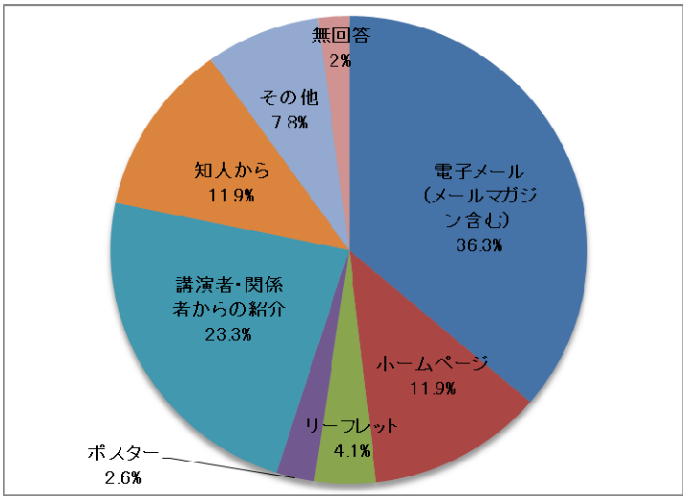
「コミュニティ『で』新しい高齢社会をつくるには」について



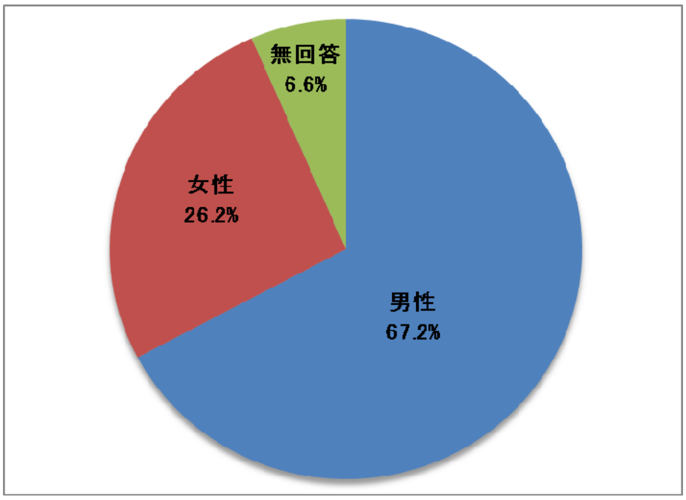
◆パネルディスカッション２に関する主な意見

- 元柏市行政の方（木村 AD）からの説明を聞き、まさに熱い思いを持った、「キーパーソン」が重要と再認識した。
- 行政との協働や企業との連携など、聞けてよかった。
- やや司会者の説明が多かったように思うが、フロアとの意見交換がよかった。
- 秋山先生の本質を突いた説明とマネジメントに感銘を受けた。
- 一般参加者の意見を拝聴でき、大変参考になった。
- 様々な立場から、このプロジェクトをどう進めるか熱く語られたことはとても良かった。
- 実施してみて、うまくいった点、だめだった点など具体的な話しがきけてよかった。
- プロジェクトの実状や、実現に向けて具体的に活動している人の生の声が聞けて有意義だった。地域間の情報共有ネットワークづくり、いいと思う。
- 「こんな社会がいいね」という論点と、現実社会の問題解決部分を分けて考えるのかどうか。今の困った状況を救い出す支援はドキドキ、ワクワクでは進まない。別の方向なのでは。
- 発言されていないパネリストがいたのが気になった。
- 新しい高齢社会をどのように構築するか、このように時間をかけて議論する機会は重要。
- センターが自らを「リソースセンター」としか定義していないことに疑問。具体的な成果をあげてこそリソースを蓄積できると考える。Composer や Player や Audience の関係の中に「学」がどんなポジションをとるのか徹底的に考えていただきたい。
- 元気高齢者を地域の資源としてエンパワメントしていける活動に参加したいと思った。
- 要支援、要介護となって自らコミュニティに参加できなくなった高齢者をどのようにコミュニティに取り込むかを考えていきたいと思う。
- 企業の立場から、ビジネスモデルの全体感や最終的な資金負担者に無理が無いか(メリットがあるか)の視点がもう少しあるとイメージがしやすいと思った。
- 事業の継続性について、もう少し踏み込んでほしかった。
- すばらしいパネルでした！
- 個別に走っているプロジェクトが有機的に結びついて、日本全体の高齢化社会における理想モデルをつくりあげられることに期待する。

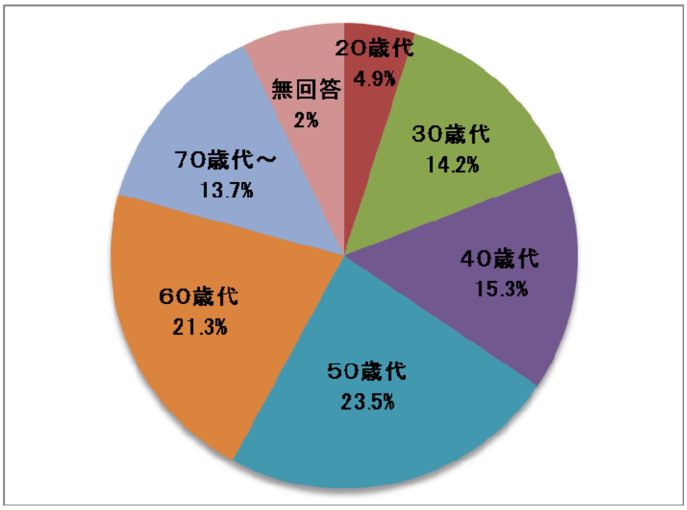
5．本シンポジウムを何でお知りになりましたか？



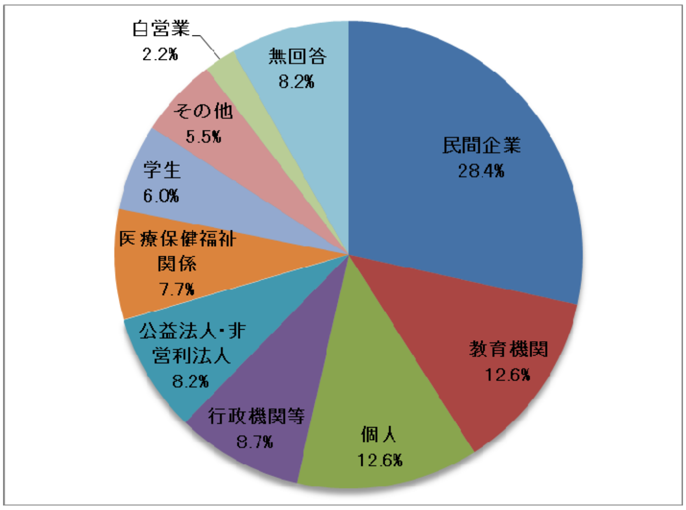
6．性　別



7．年　齢



8．ご職業



◆シンポジウム全体へのご意見

- プレゼンテーションが具体的でわかり易く、高齢社会活性化の為良い取組みが多く良かった。
- より良い高齢社会をつくるために大切なことが沢山あることを知った。
- とても良いイベントなのでこれを全国で共有するべき。ユーストリーム等に生中継や、アーカイブも必要。
- 内容豊富で非常に良い内容なので、HP、冊子等で要点を紹介していただけるとありがたい。
- アクションリサーチの結果を元に得られる発見、知見に興味がある。共有化をお願いしたい。
- ポスターもスライドで表示してほしかった。
- ポスターセッションは身近にいろいろ質問ができて、よい企画だと思った。
- 全体に時間配分の不足を感じた。一日ではなく 1．5～2 日間かけて、じっくり、「コミュニティ」形成の本質論を含めたシンポジウムを今後期待する。
- 具体策へ進むきっかけとして、近いうちに続きがあることを望む。
- 小さい規模での公開イベントを多めに開催してほしい。
- 住宅・まちづくり分野など、関連する研究や事業にとりくんでいる人たちとの情報共有を、有効に行われることを期待する。

- 地域のコミュニケーションでプライバシーの問題が気になった。セキュリティの問題も含めネットワークを共有化しはじめると、オープンガバナンスの課題が出ると思う。社会が許容できる情報の共有化のガイドライン、考え方等を整理しておく必要があると思う。どこかでオープンガバナンスの課題を議論していただきたい。
- 地方だけではなく、都市部でも高齢化は今後問題が大きくなると考えられ、その対応として、人員の拡大は無理と考えられる。その点で技術的アプローチや、具体的な手法をもっと今回のように検討すべきと考える。
- 介護者の「高齢者の心にそう」というのは大きなキーワード。しかし、支える「介護者」の疲労度が「介護うつ」という形にあらわれてしまうのを、どう、救うかという議論も必要。
- 高齢期を段階的に分けて（3 つくらいに）、それぞれの課題について疑問を洗い出すことも有益ではないか。トータルな地域社会のデザインも大事だが、これからの多死社会、その困難さをまず共有しないと、医療介護職の人たちも燃えつきてしまう。これまで善意に頼ってきた社会にも目を向けてこそ共有した地域社会デザインが見えてくるのでは。後の若い世代もつぶれてしまう。市民サイドでも何が可能か考えていきたい。
- 宣伝活動に力を入れてムーブメントを作って頂きたい。そうすれば企業も動くと思う。
- ビジネス界は、先を見ているので、先行投資もすると思う。ただ、まちづくりは長期に渡るため、平等、公平だけでは、参入できない。研究ではなく、事業としてヤマト運輸のように“力ある”“意思ある”民間に企画・計画段階から参入させることも可能では？
- 現在、企業としてある地域で、市、大学、住民と協働で、長寿社会の街づくり活動している。実例が参考になった。あとはその地域に行って現場を確認したいと思う。
- 早く成功モデルを呈示して欲しい。
- 現実に向け課題も多いが達成を願っている。自らも小さな事から社会貢献活動に積極的に参画していく様努力する。
- 種々の研究を如何に統合してオーソライズするのか？研究を如何に実践活動にしていくのか？世界最先端のリソースセンター（エンジン）の構想に興味がある。
- 一度に多くの専門家の話を聞くことができ、様々な分野の知識が得られ、よかった。今後の社会技術の実装を興味深く楽しみに注視したい。また、自らも関われるようにしていきたい。
- 困難なテーマだが、デザインを描き続け、実現への取り組みを続けることが大切だと感じた。
- 非常に良かった。第 1 回も参加したが、継続的開催してほしい。新たな希望の持てる高齢社会のパイロット・リーダーになってほしい。